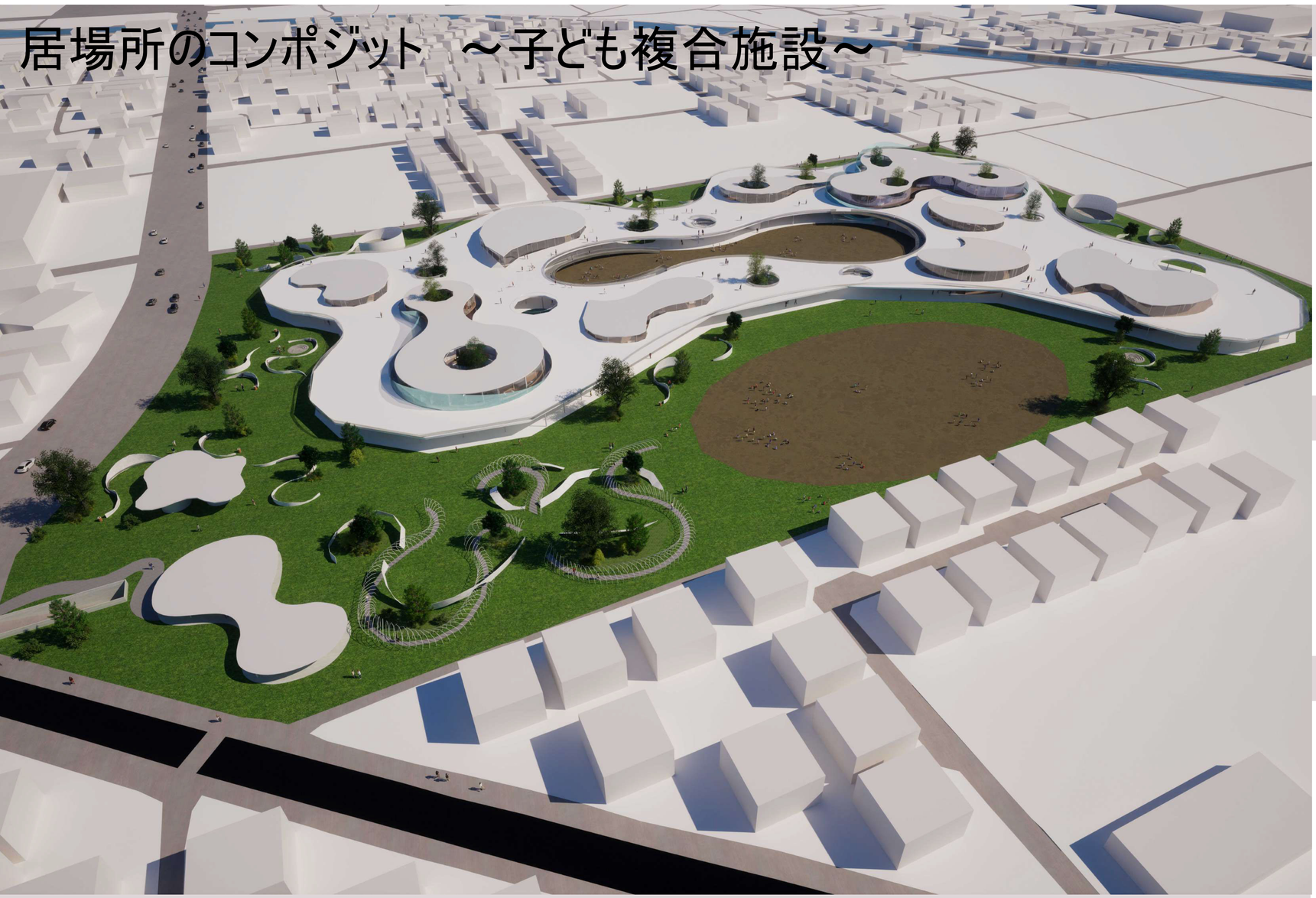
居場所のコンポジット　～子ども複合施設～



■1. 背景と目的

子どもの出生数は年々減少しており、今年は初の80万人割れとなった。少子化が住むことにより、労働力供給の減少、年金などの社会保障への現役世代の負担の増大など様々な問題が浮上し、そのために、今年度から「こども基本法」も施行されている。

従って、子どもが大切にされ、生活が守られ、家庭や子育てに夢を持ち、喜びを感じられる社会に向けた施策が求められる。

当計画は、その建築計画的手段の1つとして、子育て支援のために地域内に分散配置されている子ども関連施設を集約した「子ども複合施設」の提案を目的とする。

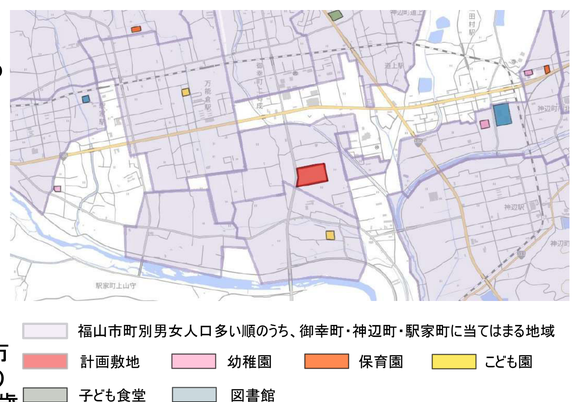
■2. 計画敷地

計画敷地は、広島県福山市の北部に位置する御幸町とする。

福山駅など市街地からは車で約30分と少し距離があるが、近年御幸町をはじめ、神辺町や駅家町など北部地域の高齢化が進むことで高齢者が田畑を手放し、宅地開発することで多くの子育て世代が住み始めている。

計画敷地周辺も福山市が調査している「福山市の町別男女人口」の0～19歳の男女x上位10の地域のうち、上位5つ以上の地域が御幸町や周辺の地域となっている。

そのため、上位10の地域の中にあった御幸町、神辺町、駅家町などの町の中心にあり、周辺に主要道路やショッピングモールなどがある。



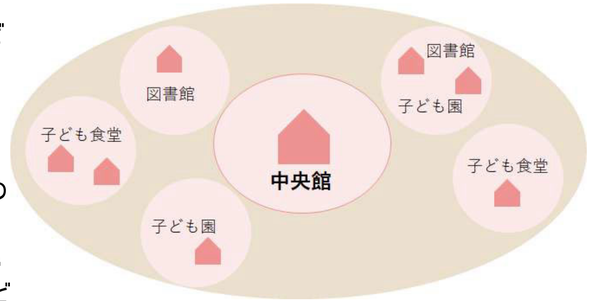
■3. 周辺の現状と地域内配置の位置付け

ID:106

計画敷地の周辺にはこども園や図書館、子ども食堂などがいくつかあるが誘致距離が狭く、収容人数や配置数、開催日が少ない。

また、子ども関連の手続きや支援を受けるためには市街地まで出なければならない。

そのため、現在分散で配置している図書館などの施設を分館とし、こども園、子ども食堂、子ども図書館、子ども健康センター、父親子育て体験教室、乳幼児・小児用品雑貨専門店、スポーツ・勉強エリア、公園を複合した施設を本館(中央館)として計画し、各分館の支援も行う。



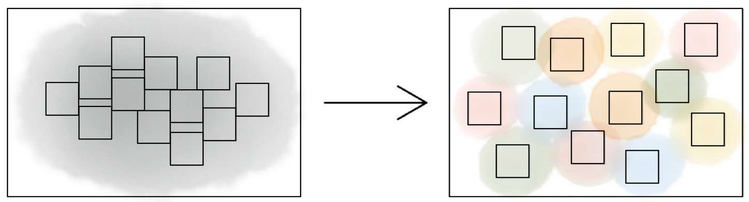
■4. 基本方針

(1)当敷地に子育てに必要な施設を複合させ、利便性を高め、用事を1カ所で完結できるようにする。
(2)複合化された空間の利点を活用し、単独施設では得られない魅力的な空間とする。
(3)誘致距離を広範囲に設定し、近隣の利用だけでなく、遠方からの利用も想定し、敷地内に駐車場を設ける。
(4)子どもがのびのびと成長できるよう、走り回りたくなる空間や自然を取り入れたデザインを計画する。
(5)保護者の安らぎの場ともなるよう、子どもを周囲から囲い、守れるデザインを計画する。

■5. 計画手法・計画システム

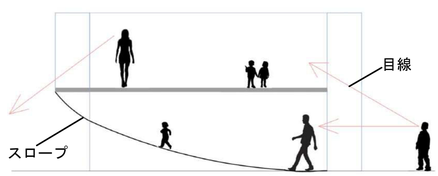
■5.1　建築的手法と構成要素

①各施設の独立性と関連性：独立性のために敷地の中に施設を分散配置し、関連性を持たせるために2階レベルにフラットルーフを設ける。また、上下階との関連性のためのスロープや各施設の外壁にガラスを利用する。

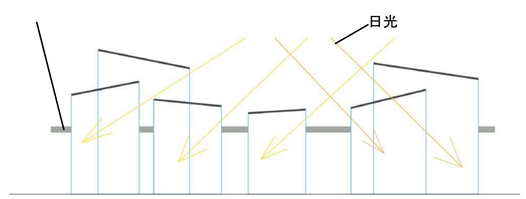


密集した複合施設だと、個々の施設の独立性がなくなる。　　複合施設を分散配置することで、独立性をもたせる。

②視認性を高めたガラスの使用：施設の周りやスロープに視認性のあるガラスを使用することで外部から施設内の子どもの様子や、どのような施設なのかが窺える空間となる。
また、施設の関連性を持たせる。



③ルーフスリットによる採光：各施設の片流れ屋根を2階レベルに設置することで、室内の採光を確保する。



■５．２ テラスとスロープの活用(子どもが走りたくなる空間)

施設全体を覆うようにルーフバルコニールーフを設けている。

■５．３　吹き抜け・採光

①地域が子どもの成長を見守るシステム：施設がグランドを囲うように配置することで、それぞれの施設利用者は施設やルーフバルコニーの上からグランドが見え、地域全体で子どもの成長を見守ることができる。

②テラスがもたらす人との繋がり：ルーフバルコニーが各施設を繋ぎ、複合化することで利用者の日常的なコミュニケーションやイノベーション、地域活性化のきっかけとなる。

⑦吹き抜けによる採光：ルーフバルコニーや施設の中に吹き抜けを設けることで、吹き抜けからルーフバルコニー下の半屋外空間や施設内の採光を確保する。

⑥ルーフバルコニー下の有効活用：吹き抜け空間の下に植栽を植えることで半屋外のポケットパークとなり、敷地のフリースペースのようにルーフバルコニー下でも自然の中を散策しているかのような内外一体空間となる。

③上下階への移動経路：ルーフバルコニーへは複合施設中央にあるグランド周りのスロープか、南北にある階段から上がることができる。また、子ども園や子ども健康センターなどの利用者が多い施設内には階段とスロープを設置する。

④スロープがもたらす刺激：幼児の利用者数が多い子ども園と子ども図書館の複合施設と子ども健康センターと子ども食堂の複合施設の周りを囲うようにスロープを配置する。

⑤屋外のポケットパークとの区別化：屋外のポケットパークは近隣住民などが対象なのに対して、ルーフバルコニー下の半屋外のポケットパークは子どもも対象とする。そのため、半屋外の吹き抜けポケットパークの周りに施設からの動線を繋ぐ流動的なベンチや滑り台を設置し、子どもが自然と集まり、子ども同士の関係が生まれるポケットパークにする。